

A Whisper of the Month

PHOTO by MARIKO

ながつき

高島典子

優しさを含んだ 日差し
涼やかな風

尖った心を包み込むように
静かに一日が 過ぎていく

あんなに
剥き出しに差し出された感情も
少しずつ 和らいでいく

ゆつくりと 堕ちていく
諦めを 道連れに…

☆プロフィール☆
鹿児島県出身、神戸在住。フリー
アナウンサーとして活躍中。
好きな言葉は「二期一会」。

<プロフィール>

京都在住。美大卒業後、大阪のゲーム制作会社に背景デザイナーとして勤務。その後ウェブデザイン、広告デザインなどの仕事を経てフリーのイラストレーターになる。作家として切り絵を発表する。成安造形大学イラストレーションクラス、NHK 文化センター・よみうり文化センターなどで講師を務める。

<http://romance.fool.jp/>



切り絵作家 横山 浪漫

一番美しい線を捉えて



初々しい乙女がモチーフとなった切り絵作家・横山浪漫さんの切り絵は、繊細な曲線が美しく、ノスタルジックでとてもロマンティックだ。女性なら誰しも夢見る少女時代を懐かしく思い出すのではないだろうか。個展会場でお話を伺った。



須澤 切り絵を始めたのは？

横山 学生の頃から趣味で始めました。上村松園さんの美人画に憧れて、美大では日本画を専攻しましたが、日本画以外にも西洋絵画やイラストレーションなど色々なことに触れて影響を受けました。切り絵もそのひとつだったので、いつの間にか専攻していた日本画よりもこちらがメインになってしまいました。

須澤 切り絵はどなたかに師事されたのですか？

横山 いいえ、独学ですね。西洋画は線ではなく光と陰で描きますが、日本画は陰影がなく、色彩と線だけで表現します。輪郭の捉え方として、そのものが持つ一番美しい線を描き出すのですが、切り絵も同じ捉え方ですね。

須澤 切り絵は色彩がありませんが。

横山 モノクロの世界が好きなんです。現実では全てものに色彩がありますが、モノクロにするとそれは非現実の世界になりますよね。モノクロの絵は見てる人によって、好きな色を付けられる。その人の感性で色を感じていただけたらと思います。

須澤 テーマとして追いつけておられるものは？

横山 美人画に惹かれたということにも通じるのですが、メルヘンと乙女が好きなので、乙女や女性が愛するようなモチーフがテーマになっていますね。これは学生時代から変わっていません。ただ、それはかなり追っている仕事に結びつきにくいですが。(笑)

須澤 作品のイメージはクラシックですね。

横山 クラシックなものが好きなんです。クラシックなものは今のものではないので、やはり非現実なものだと感じます。

須澤 花や植物のモチーフも素敵ですが。

横山 風景は背景で入るぐらいで殆どは人物を描いているのですが、女性が愛するものとして花や植物を描いています。私自身花が好きだということもありますが、植物がもつている線は美しいと思います。

須澤 今回の個展のテーマは「ハンサムな珈琲店」ということで、男性を描いておられますか？

横山 前回の個展テーマがウエディングだったので、新郎も描いてみて面白いなと思ったのと、作品の幅を広げていきたいということ。今回はハンサムな男性をテーマにしてみました。実は今年中に主人とカフェギャラリーをオープンしようと思つているのですが、カフェや喫茶店と言えはおじさん？(笑)そこで働く男性やコーヒーを飲みに来るおじ様を描いてみました。

須澤 横山さんにとって、ハンサムな男性とは顔の造作でしょうか？(笑)

横山 何かに打ち込んでいて、それにプライドを持っている男性に魅力を感じます。やっぱり、外見ではなく内面ですね。内面は顔貌に表れると思います。(笑)

須澤 乙女を作品にする時と何か違いはありますか？

横山 乙女の作品は作り慣れていて、頭の中にフォルムがちゃんと整理されて出来上がっていますので、シンプルにデフォルメされていますが、でも、今回の男性の作品は線が多すぎるといふか、写実的になってしまっています。もっとシンプルな線に整理していきたいですね。

須澤 私などは今回の作品も美しいと思いますが、シンプルに洗練されていくとどんな男性モチーフになるのか楽しみです。

<プロフィール>

予備校講師歴20年。関西～名古屋の大学受験予備校での指導経験豊富。現在元町にて「さくらみかふえ&ギャラリー」を経営。カフェにて不定期に「大人のための古文講座」を開催中。一方でろうけつ染めの技法による美術作家としても活動。西洋占星術師としての顔も持つ。

「色好み」とは、何度かこのエッセイでも紹介しているように「美的恋愛が出来る人」のこと。和泉さんは無粋な振る舞いとは無縁の方でございます。かつ、実に情熱的で奔放。

当時流行していた疫病で恋人為尊親王を亡くし、その恋愛沙汰のせいで父親からも勘当され、夫（↑夫もいたのですよ！）橘道貞との仲も冷え切ったものとなっていた和泉式部のもとに、為尊親王の元で仕えていた顔見知りの小舎人童（≪少年の召使）が、故親王の弟君敦道親王からの言葉を伝えるにやってくるという場面からこの日記は始まります。書き出しはこ

さて、そんなはかなき世の中（≪儂かっ

た為尊親王との仲）を嘆きながら暮らしていた和泉式部ですが、この小舎人童の出現をきっかけに、なにやら色っぽいことが始まりそうな気配が。（笑）

俗っぽい言い方をすれば「死んだ兄ちゃん

のハマった女ってそんなにイイ女だっ

前回、前々回と「アンチ色好み」な女性

の書いた日記を紹介してまいりましたが、今回は「色好みと真ん中」な和泉式部さんです。

「色好み」とは、何度かこのエッセイでも紹介しているように「美的恋愛が出来る人」のこと。和泉さんは無粋な振る舞いとは無縁の方でございます。かつ、実に情熱的で奔放。

当時流行していた疫病で恋人為尊親王を亡くし、その恋愛沙汰のせいで父親からも勘当され、夫（↑夫もいたのですよ！）橘道貞との仲も冷え切ったものとなっていた和泉式部のもとに、為尊親王の元で仕えていた顔見知りの小舎人童（≪少年の召使）が、故親王の弟君敦道親王からの言葉を伝えるにやってくるという場面からこの日記は始まります。書き出しはこ

んな感じ。

夢よりもはかなき世の中を、嘆きわびつつ明かし暮らすほどに、四月十余日もなりぬれば、木の下暗がりもてゆく。築地の上の草あをやかなるも、人はことに目もとどめぬを、あはれとながむるほどに、近き透垣のもとに人のけはひすれば、誰ならむと思ふほどに、さし出でたるを見れば、故宮にさぶらひし小舎人童なりけり。

季節は旧暦の四月半ば。現代では五月末くらいに当たるでしょうか。初夏の青々とした葉々が、生い茂るにつれ地面に落とす影の色をどんどん濃くしてゆく。こんなさらりと描いたふうな短い表現なのに、読み手には初夏の気配が濃密になっていく様と時間の経過していく様がリアルに伝わってきます。さらに、為尊親王を喪った夏が再び廻って来たのだわという彼女自身の感慨も表現されていて、思わず「上手いなあ」と唸らずにはいられません。（この冒頭部分を読むと、私はいつも山田詠美さんの『ベッドタイムアイズ』の冒頭部分を思い出すのですけれど。興味のある方はぜひ読んでみてください。）

たのか？」とばかりに、弟が興味津々で近づいてきたという感じなんですね！

敦道くんは、「これをどうご覧になるか？」という伝言とともに橘の花を式部に送ります。

橘といえば、この歌ですよ、この歌。

皐月待つ 花橘の 香をかげば 昔の人の 袖の香ぞする

という古今集の歌。当然「色好み」の人ならピンとこなければいけないところなのであります。（笑）

つまり、これは「死んだ兄宮のことをあなたはまだ忘れられないでいらっしやるのでしょいか？」という敦道くんからの問いかけなのでした。

式部は即座にこう詠みます。もちろん「皐月待つ」の和歌を踏まえて。

薫る香に よそふるよりは ほととぎす 聞かばや 同じ声やしたると

（花橘の香は昔の人を思い出させるとか。でも私はそれより昔と同じあの方の声を聞けないものかと甲斐のない望みを抱いているのです。（あなたはお兄様と同じお声なのかしら？）

素性法師の声ばかりこそ昔なりければという古歌をさらに踏まえて詠んだ和泉の和歌の腕前はさすがです。

が、何よりもそれよりも！聞かばや同じ声やしたるととは！

当時、異性の「声を聞く」というのは、「ただならぬ関係である」ということと同義。「あなたの声が聞きたいわ」なんていうのはつまりは…そういうことです。（笑）

「上手いなあ」とまた思わず唸らずにはいられませんか。もちろん歌にも文章にもですが、恋のもっていき方にも。（笑）

重に「上手い」和泉式部さんなのでした。

さて、この恋の行方やいかに？次号につづく。

その気にさせる女は 和歌のスペシヤリスト

— 和泉式部日記 —

La Redécouverte de la Littérature Classique

エッセイ 第19回 王朝文学の再発見

松本みのぶ

松本みのぶ ろうけつ染め作品



印日交流イベント

India Mela インディア・メーラー 2011

2011年10月 9日(日) 10:00~20:00
10日(月) 10:00~19:00

会場：神戸メリケンパーク
入場：無料

関西圏のインド好きな日本人有志スタッフがお贈りするインドフェスティバルです。賑やかな催しがメリケンパークを舞台に繰り広げられ、インド一色に染め上げられます。美味しいインド料理や雑貨、ヘナアートなども併せて、どうぞお楽しみください。

Stage (舞台)

- ★インドの芸能
- ★エンターテインメントショー
- ★インド舞踊・インド音楽演奏
- ★みんなで歌おう！人気のインド曲
- ★わくわく抽選会

Restaurant & Shop

- ★レストラン・テント
- ★インド服 & 雑貨 & アクセサリー
- ★メヘンディー (ヘナ・アート)
- ★占い

Open Space (青空広場)

- ★チャレンジ！ヒンディー
- ★ヨガ
- ★子どもの広場
- ★印日交流広場

前夜祭:10月8日(土) 15:00~

ボリウッド乱舞

- 15:00~★ボリウッドコンテスト
- 18:00~★よさこい&ボリウッドダンス 600人で踊ろう！
- 19:00~★ミュージックタイム

ボリウッド乱舞一般参加者大募集！！

ステージのメンバーと一緒に、インド音楽にのって踊りましょう！

主催 ●インディア・メーラー実行委員会
共催 ●在大阪神戸インド総領事館/インド政府観光局/在日本インド商業会議所/インドクラブ
協力 ●社団法人アジア協会アジア友の会/関西日印文化協会
問合せ ●インディア・メーラー実行委員会 TEL06-6451-7994 FAX06-6451-7731 E-mail: india@happy.odn.ne.jp





まりこの母娘珍道中記 地中海クルーズ編その1



ロンドンを拠点にして、まずはイタリアのジェノア港が起点のコスタ地中海クルーズに参加、スペインはバルセロナとマヨルカ島、マルタ共和国(島)、イタリアはパレルモとチビタベッキアを訪ねた。初めての船の旅は一番料金が安いインサイドキャビンで申し込んだのだけど、窓がないのかと思いきや、結構大きい窓があり、昼間点灯する必要も閉塞感もなく、エキストラベッドを入れてトリプルにしても十分な広さでなかなか快適。移動は夜寝ている間だから身体も楽だ。船の中ではキャッシュレスで、下船時に清算するシステムは普通のホテルと同じだ。食事に関しては飲み物以外は船内レストランのどこでどれだけ食べても無料。夕食は7時から9時からの時間帯に分かれるけれど、決まったテーブルでフル

コースが供される。これを食べても食べなくても自由だし、他にビュッフェもあって、フレキシブル。毎晩ワインを飲む人は箱単位でもオーダーできる。デザート類は甘過ぎたけれど、他はわりと美味しかったし、旅費の中で食費が占める割合って結構大きいから、円高のお陰もあって、ガトウィック空港・ジェノア空港間の往復飛行機代も含めて1人14万円程度の料金は普通のツアーより安い。夜の11時にもデザートビュッフェがあって、氷の彫像や果物で作られたフクロウなどが飾られ、豪華にデザートが並べられる。さすがに私達は食べられなかったけど、外人は食欲旺盛、太る筈よね。

前日夜に船内新聞が届き、日替わりのダンスレッスンやビンゴ、映画、エステサロンのデモンストレーションやショーなど翌日のイベントスケジュールの中からチョイスして参加できるので、丸1日航海する日もあったけれども全く退屈しなかった。むしろ、どれも参加しなかった私達は身体が2つ欲しかったくらい？(笑) プールサイドで行われた大人の借り物競走などは、見ているだけだった私達も真剣に走り回る参加者にサンクラスやたまたま持っていた船内新聞を貸して大貢献、一緒になって笑い転げて興奮のつぼだった！(笑)

小さい子ども連れのファミリー客も多く、子ども向けのサービスも充実しているようだ。30人ほどの子ども達が緑色のビニールで作ったマントを着て、顔には

海賊のベイントをして、お兄さんお姉さんに引率されてプールサイドを練り歩き、中には大泣きしながらの子もいて微笑ましかった。

イタリアの船だからか、乗客達も従業員達もイタリア人やスペイン人が多く、みんな陽気でフレンドリー。特にイタリア領内を航行している時の盛り上がり方がすごい。毎夜サーブしてくれるボーイさん達の前掛けも白からイタリアが描かれたものになり、彼らのパフォーマン스가あつたり、担当するテーブルの女性客とダンスをしたり、船長主催のシャンパンパーティーもあつて、ちよつとしたイベントが盛りだくさん。昼間プールサイドで巨体を晒していた女性達もこんな時には素敵にドレスアップ。日によってドレスコードがあつたりするから、イブニングドレスとまではいかなくてもカクテルドレスは必携だ。

一週間どつぶり、外人達と同じ船上で過ごして、例えばさりげなくダンスを楽しむ老夫婦やカクテルを片手に談笑している様を目の当たりにしたけれど、とにかく自然で、素敵だった。夫婦にしろカップルにしろ、大人の時間を楽しむというライフスタイルは文化の違いと言ってしまえばそれまでだけれど、日本人にはないものだ実感、私達も取り入れていたら離婚率の上昇に少しは歯止めがかかるとは思わないかしら？なんて思う。

限られた上陸時間を有効活用するには有料でコスタが提供しているツアーに参加するのが得策。正直、たった数時間ではその国、その都市を訪ねたとは言いがたく、どの地もいつかまたゆっくり訪ねたいと思ったのは事実だけれど、それなりに見て取れたこともある。次号もお付き合いください。

Hands Out Duex
Vol.19



Staff

発行者★須澤まりこ

ウェブデザイナー★日上和也

編集／構成／制作★須澤まりこ

校正★AIKO

★GIN

制作／配信★有限会社 Mallion

無断転載禁止

■記事広告掲載のお問い合わせは
有限会社 Mallion
E-mail:mallion55@mallion.biz

まりこのおすすめ ちょっと気になるアートイベント

ROKKO MEETS ART 芸術散歩 2011

2011年9月17日(土)~11月23日(水)

- ◆時間 10:00~17:00
- ◆会場 自然体感展望 六甲枝垂れ／六甲山カンツリーハウス
六甲高山植物園／ホール・オブ・ホールズ六甲
- ◆料金 有料会場周遊チケット
前売券：大人 1,500円／小人 750円
当日券：大人 1,800円／小人 900円

六甲山を舞台に繰り広げられる現代アートの展覧会です。ピクニック気分で六甲山上を周遊し、作品とともに自然や展望、歴史を五感で感じてください。10/21からの開催後期ではホール・オブ・ホールズ会場に今月号登場の切り絵作家・横山浪漫さんの作品も展示されますよ。

まりこのおすすめ ちょっと気になるコンサート

宇田有美子&久保田裕美
フルートデュオコンサート

2011年9月24日(土)16:00開演

- ◆会場 ムラマツリサイタルホール新大阪
地下鉄御堂筋線「新大阪」駅④番出口より徒歩8分
JR「新大阪」駅⑥番出口より徒歩10分
- ◆料金 前売一般 2,500円／小中高生 1,000円
当日 3,000円
- ◆問合せ くりえいとPEN 080-1515-3433 (藤井) まで
爽やかな秋の午後に美しいフルートデュオをどうぞ♪

まりこのおすすめ ちょっと気になる寄席

第二回 着道楽寄席

2011年9月30日(金)19:00開演

- ◆会場 天満天神繁盛亭
地下鉄谷町線・堺筋線「南森町」4B出口
JR 東西線「大阪天満宮」3番出口徒歩3分
- ◆料金 前売 2,000円／当日 2,500円 (全席自由)
- ◆出演 桂米團治／月亭遊方／桂あやめ／林家染雀 他
- ◆問合せ オフィス・サン 080-4413-6435

オシャレな衣装を身に纏い、目にも艶やかな華麗なるファッションショー感覚の落語会です。皆様もたまには着物を着てお出掛けされてはいかがでしょう？

うまく方向転換しなくちゃね



人生には波がある。なんて言ううちに大袈裟な気もするけれど、やたらと毎日忙しく飛び回る羽目になる時期と、こんなに暇な毎日でいいのか？って自問自答したくなるような時期もあるよね。

飛び回らざるを得なかった時期は、人からパワフルな行動力を褒められちゃったりしたし、フットワークも軽く飛び回れている自分が大好きだったりした。そして、それが私の性分かも？なんて思い込んでいた。

しかあし！ 今年に入ってから、長期旅行に行くためもあって、請け負っていた仕事を断り、暇状態だったのだけれど、旅行から帰ってきてからも暇状態を脱却するべく行動せずにうだうだしている。

人は様々な動機で行動している。私が行動するために必要な動機は何なんだろう？過去を振り返ってみて、私が何の疑問もなく、しんどいとも何とも思わずやってこれたことって直接的、間接的に娘達に関わっていることだったような気がする。自分だけのためにはどうも一生懸命になれないし、頑張り続けられないし、どうでもいい気がしてしまふ。

誰だったか忘れてしまったけれど、中期から老年期への移行の仕方を失敗すると、生きる目的を失ってしまったのではないかと言っていた。頷けなくもない。長年娘達が行動動機になっていたのでうまく方向転換する必要がありそうだ。

★編集後記★

いつまで続くこの暑さ！と思っていたが、台風一過、爽やかな秋空が広がって、季節の変化を実感しますね。美しい日本の秋を満喫したいです！
(MARIKO)

今回の東京ゲームショーに、家から出ず、暑い思いをせず行きたい。完全に逃避モードです！
(KAZUYA)

あつという間の1年でしたが、たくさん思い出とともにロンドンから帰国しました。成田に着くや否や大量に受信したメールへの返信に追われつつ、住環境を整えるために奔走中。久方ぶりの里帰りも楽しみですよ！
(AIKO)

だんだん季節が秋になってきました。秋と言えはいろいろあるけれど、やっぱり食べ物が楽しみです♪どれだけ食べられるかな〜★
(GIN)

